

## ご挨拶

この度、企画展「坂上田村麻呂伝説～東北に息づく田村ガタリ～」を開催する運びとなりました。坂上田村麻呂に関わる伝説は、登米市をはじめとして東北各地に残り、市内には田村麻呂と関係の深い奥州七観音のうち、興福寺（南方町）、長谷寺（中田町）、華足寺（東和町）が所在しています。また、市内には田村麻呂と対峙した悪路王や大武丸などに関わる伝説も数多く残され、田村麻呂とそれに関わる伝説が登米地域の人々にとって身近なものであったことがわかります。

本企画展は、登米市内を中心として宮城県北部から岩手県南部に残る田村麻呂伝説を取り上げ、坂上田村麻呂伝説から地域を再発見する機会にしたいと考えております。

今回の企画展の開催にあたり資料の提供やご指導を頂きました諸機関、関係各位に心よりお礼申し上げます。

平成29年7月1日  
登米市歴史博物館長 片岡鉄郎

## 目次

はじめに	坂上田村麻呂と東北	02
1	伝説の將軍へ～古代・中世の田村ガタリ～	03
2	奥州七観音の世界	04
3	描かれた田村麻呂	09
4	芸能のなかの田村麻呂	10
おわりに	坂上田村麻呂伝説と登米地域	11
	協力者一覧・参考文献	14

### 凡例

1. 本書は登米市歴史博物館主催の企画展「坂上田村麻呂伝説～東北に息づく田村ガタリ～」(展示期間：平成29年7月1日～9月24日)の展示図録である。
2. 本書は、「オオタケマル」の表記を「大武丸」に統一した。
3. 図版は、展示資料の一部であり、図録掲載と展示の順序は必ずしも一致しない。
4. 本書に掲載されている資料を登米市歴史博物館の許可なく転載することを禁じる。
5. 本書は、館内の協議を経て高橋紘(当館非常勤学芸員)が編集を行った。
6. 本書に掲載した資料などには、不適切な表現、および差別的な表現がみられる場合があるが、それらの差別観を容認するものではない。ここでは歴史的資料として収録している。

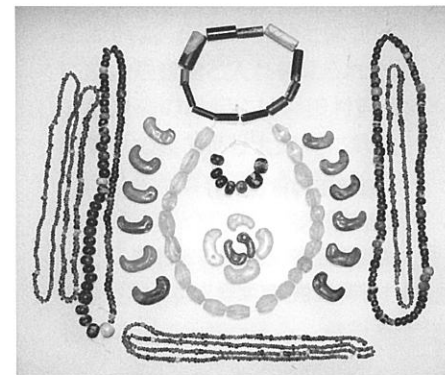
表紙の図版 坂上田村麻呂と大武丸絵馬(長谷寺蔵)

## はじめに

# 坂上田村麻呂と東北

坂上田村麻呂(758～811)は、奈良時代中期～平安初期の武官である。桓武天皇に信頼され、<sup>みよし</sup>蝦夷との38年戦争で活躍した。延暦10年(791)7月に征東副使(同12年2月に征夷副將軍と改称)に任じられたのを皮切りに、征夷大將軍や陸奥守など東北に関わる役職を歴任している。胆沢城(岩手県奥州市)、志波城(同県盛岡市)を造営し、蝦夷の首長であった阿弭流為(アテルイ)、母礼(モレ)の助命嘆願を行うなどの逸話が残っている。登米市内には、蝦夷の首長層の墓の可能性が指摘されている山根前横穴墓群(石越町)、白地横穴墓群(中田町)が所在している。登米市は横穴墓の北限域でもある。

田村麻呂と戦った対象は、阿弭流為、母礼に代表される蝦夷であった。それが時代を経るごとに少しずつ変化をし、多様な田村麻呂伝説が形成されていったのである。



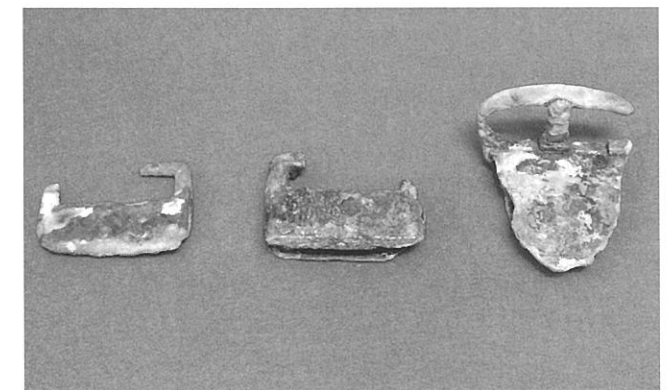
玉類 山根前横穴墓群  
奈良時代初期 登米市教育委員会蔵  
写真提供：登米市教育委員会



直刀及び蕨手刀 山根前横穴墓群  
奈良時代初期 登米市教育委員会蔵 写真提供：登米市教育委員会  
蕨手刀は2・4号墳、直刀は3・4・7号墳で出土している。蕨手刀の名称は、柄頭の形状が早蕨に似ていることに由来し、在地の刀鍛冶によって生産されたと考えられている。



ガラス玉  
白地横穴墓群 奈良時代  
登米市教育委員会蔵  
写真提供：登米市教育委員会  
群青色に白色の輪郭で区画された水色の象眼が施されている。



鍔帯具(鉸具・巡方) 白地横穴墓群  
奈良時代 登米市教育委員会蔵

白地横穴墓群の5号墓から出土した。山根前横穴墓群からも出土している。鍔帯は金属製の飾り金具をつけた革帯のことで、5号墓のものは、銅製で六位以下の下級官人が身につけるものである。このことは、白地横穴墓・山根前横穴墓に埋葬された人物が、地域に力をもち古代国家の東北支配に関与した人物であることを意味している。



琥珀玉  
山根前横穴墓群  
奈良時代初期  
登米市教育委員会蔵

# 1 伝説の将軍へ ～古代・中世の田村ガタリ～

田村麻呂は、古代から伝説的な人物として語られたようである。古代は主に毘沙門天の化身や清水寺の建立者として語られていた。毘沙門天との関わりは、38年戦争で活躍した田村麻呂に北方の守護を期待したためと考えられる。中世に至り、鎌倉時代の歴史書である『吾妻鏡』には、「田村麻呂利仁等将軍が天皇の命により蝦夷を征討しようとした時、賊主悪路王と赤頭らが塞を構えた窟である。(中略)坂上将軍が、この窟の前に九間四面の精舎を建立し、鞍馬寺を模して多聞天の像を安置し、西光寺と名付け水田を寄付した。」と見える。この達谷窟・達谷西光寺に関する記載と、同じく『吾妻鏡』に見える鎮守府八幡宮(岩手県奥州市)の記載が、東北地方における田村麻呂伝説の最古の記録である。その後に成立した『元亨釈書』では高丸、『諏訪大明神絵詞』では、安倍高丸が退治の対象として現れ、『神道集』では、「稲瀬五郎田村丸」が悪事高丸を退治している。これ以外にも様々な中世文学に田村麻呂は登場している。



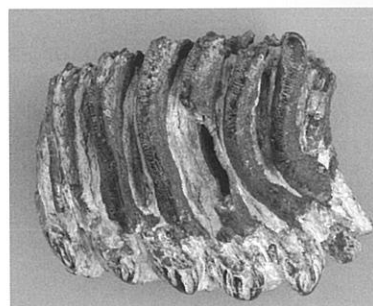
達谷西光寺(写真は達谷窟毘沙門堂) 岩手県平泉町  
達谷西光寺は、東北地方の田村麻呂伝説の中心地で岩手県平泉町に位置している。その縁起によると延暦20年(801)に田村麻呂が窟毘沙門堂を建立し、翌年に別当寺として達谷西光寺を置いたと伝えられている。源頼義・義家、奥州藤原氏、葛西氏とも関わりが深く、江戸時代には伊達氏の祈願寺となり、領内巡見の際には藩主が度々立ち寄っている。毎年、旧暦5月23日に「大將軍会」を執り行い田村麻呂の供養を行っている。



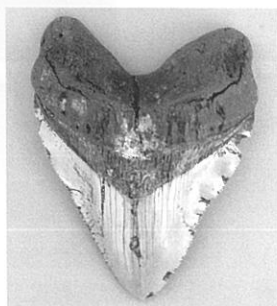
悪路王の首(複製)  
原資料 鹿島神宮蔵  
複製品 東北歴史博物館蔵  
写真提供:東北歴史博物館



田村麻呂奉納の硯 達谷西光寺蔵  
田村麻呂の奉納と伝わる。黒色が強い方が黒の硯、灰色がかった方が白の硯である。この硯は、金山師が鉱石の金含有量を調べるために持ち歩いた「笠懸」だとされる。



鬼の歯  
達谷西光寺蔵  
田村麻呂の奉納と伝わる。



鬼の牙  
達谷西光寺蔵  
田村麻呂の奉納と伝わる。鬼の歯とともに仙台藩主が訪れる度に御覧になったという。寺の子どもが、この牙から鬼を想像し、眠れなくなってしまうという。



悪仏(十一面観音像)  
室町時代 達谷西光寺蔵  
達谷西光寺の鎮守白山社(享保年間に廃絶)に伝えられた。岩の上に座し、通肩の衣体など珍しい造形となっている。金銅仏で、鏡盤は後補されたものである。

# 2 奥州七観音の世界

奥州七観音は、坂上田村麻呂と関わりの深い観音七か所の総称である。その七か所は、大嶽観音堂(登米市南方町)、篔岳観音堂(涌谷町)、牧山観音堂(石巻市)、長谷観音堂(登米市中田町)、小迫観音堂(栗原市金成)、富山観音堂(松島町)、鱒淵観音堂(登米市東和町)である。

奥州七観音の最古の記録は、鎌倉時代に成立した『長谷寺験記』(以下『験記』)である。ここには、田村将軍の馬が陸奥国の三迫で死んでしまったため、新長谷寺を建立し、これと同時に奥州に六か所の寺院を建立したと記されている。江戸時代に仙台藩で編纂された『風土記御用書出』の「華足寺書出」には次のようにある。「田村丸は奥州の鬼神退治の宣旨を重ねて賜り、奥州へ下るとき大和国長谷寺雲井ノ坊より葦毛の馬を送られた。この馬に乗り奥州へ向かい佐沼へ下着した。鈴鹿御前は先に来て大武に毒酒をすすめ、大武は酒に酔って寝ころび前後不覚の有様であった。将軍は太刀をぬいて大武の首をはね、首をそこに埋め観音を建立した。これが大嶽観音である。骸は篔嶺に埋めて建立した。大武が蘇り強勢な鬼神にならないためであった。鬼神の同類は、湊の牧山、水越の長谷、ひるかのおはさま、鱒淵の華足寺、南部の三戸とはつ、の七か所に居所を構えていたが悉く退治され、それぞれの地に観音を建立した。」とある。ここでは、南部の三戸とはつ(恵光院観音堂 青森県南部町)が七観音とされているが、宝永年間(1704～1711)に富山観音堂と入れ替えられたという。

華足寺の縁起には、田村麻呂の助力者として「鈴鹿御前」、敵対者として「大武(丸)」が見える。鈴鹿御前は、田村麻呂の妻であり大武丸に毒酒を飲ませている。大武丸は、強大な鬼として描かれ毒酒に酔った際に切られている。ここに見える酒を用いた退治は、酒呑童子伝説の系譜に位置づけができる。田村麻呂と両者の関係は、室町時代に成立した御伽草子の『鈴鹿草子』とその同系である『田村草子』に確認することができる。

このように七観音の縁起には、『鈴鹿草子』のような御伽草子や仙台藩領内で語られた御国浄瑠璃(『田村三代記』)の影響が窺える。また、敵対する対象が蝦夷から鬼へと変化している。七観音の伝説は、『験記』を基にして、様々な物語の要素を取り込み、敵対者や住処などを変化させながら展開していったのである。



『田村三代記』 宮城県図書館蔵  
写真提供:東北歴史博物館

御国(奥)浄瑠璃は、江戸時代から仙台藩領内で、盲法師らによって語られた文芸作品である。作中では田村将軍三代の活躍を描き、三代目の田村丸利仁が鈴鹿山にすむ立烏帽子の援助のもと、大武丸を「達谷が岩屋」で退治している。



『田村草子』 宮城県図書館蔵  
写真提供:東北歴史博物館

藤原俊重・俊祐・俊仁・俊宗の活躍を描く御伽草子である。俊仁は鬼の悪路王、俊宗は、鈴鹿御前の援助で鬼の高丸・大武丸を退治している。



鱒淵観音堂(華足寺)  
登米市東和町

大同2年(807)に田村麻呂が、戦死した敵味方の人々をとむらうために建立し、馬頭観音像を安置した。馬の守護尊として信仰を集めている。江戸時代には伊達家の祈願寺となっている。